

立ち止まり対話するための助成金「AKBN（アケボノ）ファンド」 第 6 期 助成事業報告書（NPO 法人森ノオト）

1. 振り返りエッセイ

「おもしろい助成金がある！」とスタッフから情報共有された AKBN ファンド。「立ち止まり」「対話する」ために使って良い助成金とは、まさに今の私たちにどんぴしゃで必要なのでは?! と思い、だいぶ前のめりな姿勢で応募しました。

昨年度は法人設立 9 年を迎え、事業に関わるスタッフがグッと増えて約 20 名ほどになり、とても心強い反面、みんな自分の持ち場だけで手一杯な状態、かつ団体が何を目標しているのかが共有できていないのではないかと、うっすらとした課題感がありました。今回、AKBN ファンドを活用させてもらうことで、事業の一環として全スタッフミーティングを年 3 回開催することが実現しました。初回の 9 月はオンライン開催。まずは顔合わせの時間として、それぞれの「推し」について紹介。なんとなく全体に漂う「お互いの存在を知っている」という状態が生まれました。

そこから年内の事業の波を乗り越えた後の 12 月は、事務所から車で高速に乗って 1 時間ほど距離の離れた一軒家カフェを貸し切ったのワンデイミーティング。対面で集合するのは初めてのことで緊張感もありましたが、できるだけ事業部を超えたメンバーが交ざるようにワークを重ねて、徐々に温度感が高まっていくのを感じました。特に盛り上がったのが、「#ハッシュタグわたし」というワーク。自分自身にハッシュタグをつけてみるというワークの中で、「お互いへのギフトも OK」としたところ、ハッシュタグギフトが飛び交うことに。「#期待の新人!」「#言葉選びが美しい人」「#励まし名人」などなど、こんな風に仲間から見えていたんだ、という気づきがたくさん生まれていました。特に忙しくギフトを運んでいたスタッフが、「いつも在宅で仕事しているから、『あの人、こんなところすごいんだよなあ』と思っても誰かと語り合えなかったけど、今日ハッシュタグ送れてスッキリしたー! 楽しい!」と頬を紅潮させながら話していたのがとても印象的でした。

年が明け、次年度の計画や予算も決まってきた 3 月。1 年の振り返りと各自の現在地に焦点を当てた 3 回目を実施。その日も事務所から離れた会場を借りてワンデイミーティング。春の鎌倉という立地もあって、小旅行に来た高揚感もありながら、全スタッフで集まることに慣れた様子が見られました。事業部ごとに分かれて、今年度と次年度を漢字一字で表現するワークや、お互いの共通点を探すインタビューワークなどちょっと盛り込みすぎたかなという反省も。ですが、最後に行った「お悩み解決会議」は、スタッフからもとても好評でした。4 名ほどのグループに分かれて、それぞれの業務上の悩みに、お互いが全力でアドバイスを出すというシンプルなもの。事業や立場が違うからこそ、ちょっと引いた目線で、でも具体的なアドバイスも生まれて、お互いに貢献し合う心地よさに包まれて終了しました。

3 回の全スタッフミーティングを通して、お互いを知った状態を作れたこと、他の事業がどんなことに取り組んでいるのか、森ノオトが何を目指して活動しているのかが共有できたと感じています。「じんわりと組織の体温を上げる」。そこに取り組む機会を作れたことに、改めて感謝申し上げます。

2. 支出報告書

決算会計報告		
種別	内容	収入金額
<input type="checkbox"/> 本助成金	AKBN ファンド想いと向き合う or 数字と向き合う (選択)	200,000
<input type="checkbox"/> その他	自主財源	74,996
費目	対象・使途・目的・内訳 (具体的な詳細を記入)	支出金額
<input type="checkbox"/> 人件費		
<input type="checkbox"/> 諸謝金		
<input type="checkbox"/> 賃借料	会議会場レンタル料 サラカフェ 71,940 円 (2022 年 12 月 9 日) 旧村上邸 110,000 円 (2023 年 3 月 27 日)	181,940
<input type="checkbox"/> 会議 (飲食) 費	会議飲食代 23,850 円 (2022 年 12 月 9 日)、34,856 円	58,706
<input type="checkbox"/> 消耗品費		
<input type="checkbox"/> 旅費交通費	会議交通費 (2022 年 12 月・2023 年 3 月) 高速代・パーキング代・電車賃 34,350 円	34,350
合計金額		274,996

3. 助成プログラムへのフィードバック

対話するためだけに使える素晴らしい助成金をありがとうございました。選考委員に寄付者や過去に助成を受けた団体の方がいることが、とてもユニークだと感じました。また振り返りのインタビューを通して、本助成での成果というよりも、その際に何を感じていたのか、大事だと感じたのかという自分たちの内面にフォーカスすることができて、報告のためだけではない正直な振り返りができました。